

1.短期プラン

シントテバヤシの短期プランは、館林市の予算配分を大胆にかつ戦略的に組み換えることを要請します。なぜなら次の3つが、緊急かつ最優先の政策です。

3大緊急政策

- ①小・中学校の一斉エアコン設置
- ②小・中学校の給食費完全無料化
- ③小・中学校給食の質と量の充実化

教育予算は発展の不可欠な土台

館林市のまちづくり・シントテバヤシがもっとも重視する根本原理が、人材育成・人材投資です。教育予算は、減らすべき公共コストでは断じてありません。この政策と予算は、地域社会にとって持続可能性と発展の土台となるものです。ゆえに、まちづくりのために、最優先かつ必要不可欠な予算です。

明石市政策の創造的な適応

シントテバヤシは、兵庫県明石市の前市長・泉房穂氏による「最新版地方自治体発展モデル」を、館林市の現実と実態に基づいて、創造的に適応します。この発展モデルは、子ども子育てを中心としたまちづくりモデルです。「生きやすさ」と「経済」を両立させたモデルになっています。

館林市はどうなっているか

人口減少と少子高齢化は、逃れることができない鋼鉄のマンリキのように地方自治体を締め付けています。館林市は、いまどうなっているのか？館林市は、年に600人減っている。すると、10年で6,000人減る。館林市の人口は、76,000人である。ゆえに、10年後には60,000人台に減っている！いったい、どうなってしまうのか？

減少と縮小の近未来

働く人たちが減る。若い女性たちが減る。子どもたちが減る。買い物する人たちが減る。
そして、経済活動が縮む。まちの商工業が縮む。まちの税収が縮む。まちの公共事業も縮む。公共サービスも公共イベントも縮む。

さらに、小・中学校の予算が減る。館林市の子どもたちの学び成長する機会が、どんどんもっと減る。

その結果として、子育て世代が、生きることに、働くことに、人生を楽しむことに難しいまちになる。そのようなまちでは、若い世代が他の自治体から館林市に移住しない。館林市で、子育てる気持ちを持てない。

シンタテバヤシの箱舟をつくる

これは、館林市民にとって、いま目の前にある重大な危機です。もう、待ったなし！シンタテバヤシの出番です。シンタテバヤシの箱舟を作りましょう。そうしなければ、なすすべもなく大洪水に巻き込まれるだけです。この時代を生きのびるために、いっしょにシンタテバヤシの箱舟をつくろうではありませんか！